

令和8年度妹背牛町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は全耕地面積に占める主食用米面積の割合が60%を超え、転作作物に占める小麦、大豆、ソバをはじめ水張転作である飼料用米等が面積の多くを占めている。

米の集荷施設を整備し、水稻の作付に傾注してきた地域としては、「生産の目安」の推進に取り組みながら、加工用米、飼料用米、新市場開拓米等で水張面積の維持を図っていくことが重要である。

その他、小麦、大豆、ソバ等については、透排水不良や融雪の遅れ等により単収の低下を招くなど年次による収量の変化が見られることから、暗渠等の整備や融雪促進が必要となっている。

また、複合経営の手段として、土地利用型作物や施設園芸作物として、ししとう、ミニトマト、メロン、花卉等について維持拡大を目指している。

しかし、近年では本町においても農業従事者の高齢化や農家戸数が年々減少しており、経営体当たりの経営規模拡大が進んでいる現状の中、生産コストの増加に伴う農業所得の減少などが懸念される状況である。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本町においても収益性の高い水田農業経営の推進を図るため産地交付金を活用しながら高収益作物等の作付け拡大を図っていく。

高収益作物の導入にあたっては、土地利用型作物としてブロッコリーや施設園芸としてししとう、ミニトマト、メロン、花卉等の栽培を推進し、安定供給に向けたロットの確保による有利販売、品質向上によるブランド化を進め、収益力の向上による経営の安定化を進める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本町は恵まれた土地資源を生かして水稻を主体とした農業が展開されており、農地の集積・集約化を進めてる。その中で人・農地プランに描かれている将来像等を見据えつつ、畑作物を生産し続けている区画等がある場合は、必要に応じて畑地化の取組を進めることができるよう情報提供等を図り、効率的な土地利用に配慮しながら関係機関と調整しながら畑地化を検討していくが、基本方針としては水田機能を維持し生産の目安を遵守した中で将来に渡り主食用米の生産地として取り組む。

また、本町においては水稻を維持しつつ、水田複合経営の重要作物に位置付けている、小麦、大豆等の作物の連作障害回避等のため、水稻作における用水等からの養分供給、畑作時の乾土効果等を検証しながら、必要に応じて地力作物導入を含めた適正なブロックローテーションの構築を進めていく。

なお、ブロックローテーションの導入にあたっては、米のタンパク質含有率の増加や排水性、作業効率の低下等を招く恐れもあるため、課題について検証しつつ関係機関と連携しながら対応策を検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

町内の約 3,045ha の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。今後は需給状況を踏まえ、集荷業者等の意向を勘案しつつ高品質、良食米の生産を推進する。

また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 備蓄米

主食用米の需要減が続く中、水張面積の維持を図るため、系統（ホクレン）を中心としながら、JA 独自の実需者の開拓を進め、需要量と面積の拡大を図ることとし、必要数量に応じた契約数量を目指す。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

水稻作付面積の維持のため、産地交付金を活用しつつ実需者との結びつきの強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

イ 米粉用米

作付け予定なし

ウ 新市場開拓用米

水稻作付面積の維持のため、産地交付金を活用しつつ実需者との結びつきの強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

エ WCS 用稲

水稻作付面積の維持のため、産地交付金を活用しつつ実需者との結びつきの強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

オ 加工用米

水稻作付面積の維持のため、産地交付金を活用しつつ実需者との結びつきの強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

(4) 麦、大豆、飼料作物

小麦については、品質向上に向けた圃場管理対策や病虫害対策、適期収穫と乾燥麦の受入体制の確立を図るとともに、豆類などとの間作栽培を導入した新たな輪作体系や田畑輪換体系により、均一・高品質な小麦の安定供給を行い作付け増加を目指す。

大豆については、小麦と同様に品質向上に向けた圃場管理対策や消費者・実需者ニーズに即した品種選定などを推進し、適期収穫による品質向上と均質化を進め、作付増加を目指す。

(5) そば、なたね

単収の安定化、生産性・品質の向上の取組みを行い、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(6) 地力増進作物

「北海道緑肥作物等栽培利用指針（改正版）」等に基づく地力増進作物（えん麦）の作付けにより、良質な農産物の安定供給、生産コストの低減及び環境負荷の軽減に配慮した合理的な肥培管理・土壌管理を進める。

また、生産性の向上を図るための基盤整備を進めているが、工事後の地力低下が懸念されているため、良質な表土を保つために地力増進作物の作付けを進める。

(7) 高収益作物

花卉・ブロッコリー・ししとう・メロン・ミニトマト等について、地域の振興品目とし、作付の維持拡大を目指す。

(8) 耕畜連携

飼料用米、WCS用稲、飼料作物等について、わら利用、水田放牧、資源循環の取組を推進し、耕種農家と畜産農家の連携を図っていく。

5 作物ごとの作付予定面積等	～	8 産地交付金の活用方法の明細
-----------------------	---	------------------------

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2067.3		2099.0		1870	
備蓄米	0		95.1		0	
飼料用米	38		33.7		194	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	12.5		12.7		12.6	
WCS用稲	91.1		90.7		10	
加工用米	70.6		70.1		10	
麦	530.3		433.9		680	
大豆	100.4		84.4		110	
飼料作物	11.3		19.0		30	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	36.7		46.6		40	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	31.1		23		42.4	
高収益作物	29.8		17.3		33.9	
・野菜	0.4		0		7.4	
・花き・花木	16.6		16.5		19.5	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	12.8		0.8		7	
その他	0		0		0	
・〇〇	0		0		0	
畑地化	0		0		16.1	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	小麦	麦収益向上助成	単収 作付面積	（7年度） 408kg/10a （7年度） 530ha	（8年度） 480kg/10a （8年度） 680ha
2	大豆（黒大豆含む）	大豆収益向上助成	単収 作付面積	（7年度） 368kg/10a （7年度） 100ha	（8年度） 280kg/10a （8年度） 110ha
3	そば	そば収益向上助成	単収 作付面積	（7年度） 68kg/10a （7年度） 36.7ha	（8年度） 70kg/10a （8年度） 45ha
4	花き、ししとう、ブロッコリー、ミニトマト、メロン	地域振興作物助成	作付面積	（7年度） 16.9ha	（8年度） 19.5ha
5	小豆	地域振興作物助成	作付面積	（7年度） 12.8ha	（8年度） 7ha
6	その他野菜	地域振興作物助成	作付面積	（7年度） 0.1ha	（8年度） 7.4ha
7	飼料用米	わら利用助成（耕畜連携）	取組面積 作付面積	（7年度） 6.6ha （7年度） 38.0ha	（8年度） 24ha （8年度） 194ha
8	飼料作物	水田放牧助成（耕畜連携）	取組面積 作付面積	（7年度） 0.3ha （7年度） 11.2ha	（8年度） 0.6ha （8年度） 30ha
9	飼料作物、WCS用稲	資源循環助成（耕畜連携）	取組面積 作付面積	（7年度） 22.8ha （7年度） 102.3ha	（8年度） 29ha （8年度） 84ha
10	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	（7年度） 31.1ha	（8年度） 42.4ha
11	そば	そば作付助成	作付面積	（7年度） 36.7ha	（8年度） 40ha
12	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組拡大助成	作付面積	（7年度） 12.5ha	（8年度） 12.6ha
13	新市場開拓用米	複数年契約加算	取組面積	（7年度） 0.0ha	（8年度） 12.1ha
			作付面積・数量	（7年度） 12.5ha/73 t	（8年度） 29.8ha/172 t

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要
都道府県名:北海道
協議会名:妹背牛町地域農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦収益力向上助成	1	12,400	麦	融雪排水対策
2	大豆収益力向上助成	1	12,400	大豆	融雪排水対策
3	そば収益力向上助成	1	11,600	そば	融雪排水対策
4	地域振興作物助成	1	49,900	花き、ししとう、ブロッコリー、ミニトマト、メロ ン	作付面積に応じて支援
5	地域振興作物助成	1	39,500	小豆	作付面積に応じて支援
6	地域振興作物助成	1	20,700	その他野菜	作付面積に応じて支援
7	わら利用助成(耕畜連携)	3	10,800	飼料用米	利用供給協定を締結、排水性対策
8	水田放牧助成(耕畜連携)	3	10,800	飼料作物	利用供給協定を締結、排水性対策
9	資源循環助成(耕畜連携)	3	10,800	飼料作物、WCS用稲	利用供給協定を締結、排水性対策
10	地力増進作物助成	1	9,900	地力増進作物	圃場整備を行った圃場で地力増進作物を作付けし鉤き込む
11	そば作付助成	1	20,000	そば	作付面積に応じて支援
12	新市場開拓用米取組拡大助成	1	20,000	新市場開拓用米	作付面積に応じて支援
13	複数年契約加算	1	10,000	新市場開拓用米	令和7年産以降に連続した3年以上の複数年契約を締結

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

8 産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

妹背牛町地域農業再生協議会

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
		当初配分 (A)	追加配分 (B)
妹背牛町地域農業再生協議会	83,421,000	83,421,000	
			83,412,840

(注)追加配分が未定の段階にあっては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠
83,421,000

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価① (円/10a)	面 積 (a単位)※3																	所要額 ①×② (円)
				戦略作物							新市場開拓用米	そば	なたね	地力増進作物	高収益作物				その他	合計 ② ※5	
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米					野菜	花き・花木	果樹	その他の 高収益作物			
1	麦収益力向上助成	1	12,400	43,397																43,397	53,812,280
2	大豆収益力向上助成	1	12,400		8,449															8,449	10,476,760
3	そば収益力向上助成	1	11,600								4,665									4,665	5,411,400
4	地域振興作物助成	1	49,900											0	1,653					1,653	8,248,470
5	地域振興作物助成	1	39,500														78			78	308,100
6	地域振興作物助成	1	20,700											0						0	0
7	わら利用助成(耕畜連携)	3	10,800					438												438	473,040
8	水田放牧助成(耕畜連携)	3	10,800			30														30	32,400
9	資源循環助成(耕畜連携)	3	10,800						2,193											2,193	2,368,440
10	地力増進作物助成	1	9,900										2,305							2,305	2,281,950
11	そば作付助成	1	20,000																	0	0
12	新市場開拓用米取組拡大助成	1	20,000								0									0	0
13	複数年契約加算	1	10,000								0									0	0
合計(基幹)※4			実面積	43,397	8,449	30	0	438	2,193	0	0	4,665	0	2,305	0	1,653	0	78	0	63,208	83,412,840
合計(二毛作)※4			実面積																		

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができます。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う使途について記入し、追加配分により支援を行う使途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各使途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)使途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

4. 追加配分等を受けた場合の調整方法

①追加配分(取組に応じた配分)については整理番号11,12(20,000円)及び13(10,000円)で活用する。
※追加配分対象面積報告時の面積算定と交付対象面積算定時の端数処理の違いにより残額が出た場合は②に含めて活用する。

②①以外の追加配分については整理番号1～10の使途で一律に増額調整を行い活用する。
※取組に応じた配分(地力増進作物)があった場合は合わせて活用する。

なお、増額調整の上限は整理番号1,2については15,000円、整理番号4については60,000円、それ以外については上限単価とする。
 $\text{調整後単価} = \text{調整前単価} \times (\text{当初配分} + \text{追加配分}) \div \text{整理番号1～10の使途の所要額}$

③上記②の調整でなお余る場合は整理番号1,2,4において上限単価を限度に増額調整を行い活用する。
 $\text{調整後単価} \times (\text{当初配分} + \text{追加配分} - \text{整理番号3,5～10の②の調整後の所要額}) \div \text{整理番号1,2,4の②調整後の所要額}$

④上記③の調整でなお余る場合は整理番号4において上限単価を限度に増額調整する。
 $\text{調整後単価} \times (\text{当初配分} + \text{追加配分} - \text{整理番号1,2,3～10の③の調整後の所要額}) \div \text{整理番号4の③の調整後の所要額}$
※調整後単価は、円単価とし100円単価以下は切り捨てる。

5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

①整理番号11,12(20,000円)及び13(10,000円)は単価を固定する。

②配分額が対象面積の増加等により不足する場合、単価調整率を整理番号1～10の使途一律に減額する。
 $\text{調整後単価} = \text{調整前単価} \times (\text{当初配分} + \text{追加配分}) \div \text{整理番号1～10の使途の所要額}$

※調整後単価は、円単価とし100円単価未満は切り捨てる。

6. 高収益作物について

小豆

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜・花き・花木・果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会			整理番号	1	
使途名	麦収益力向上助成					
対象作物	麦					
単 価	12,400円／10a以内(上限21,000円)					
課 題	本町は豪雪地帯であるため雪解けも遅く春先には降雨が多発するため排水不良による単収の低下を招いていることから排水対策等を徹底する必要がある。また、単収を増加し収益力の向上を図るためには適切な肥培管理を徹底し、生産性、品質の向上を図る必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	単収 作付面積	目 標	499kg/10ha	460kg/10ha	470kg/10ha	480kg/10ha
			460ha	680ha	680ha	680ha
		実績	450kg/10ha	406kg/10ha	408kg/10ha	
			672ha	597ha	530ha	
内 容	地域全体の生産性・品質を向上し収量の安定化を図るため、単収向上の取組に対し交付する。					
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を販売目的で作付した農業者又は農業生産法人 ○対象農地：水田 ○取組要件 以下より2つ以上実施。 ①心土破碎(サブソイラ、プラソイラ等施工)、②明暗渠の施行(無材暗渠施工含む) ③心土改良(カッティングソイラ等施工)、④畦間サブソイラ施工、⑤高畦栽培 ⑥深耕爪付プランタの利用、⑦畦間土壌透水性改善(カルチベータ等施工) ⑧土壌診断結果に基づく適正施肥を実施する。 ⑨適期播種を実施すること。(晩期限界期限までの播種) ※晩期限界期限については、空知農業改良普及センター北空知支所が農業者向けに配布している「営農情報」で示された期日とする。 ⑩融雪促進による圃場の乾燥化(融雪剤散布、サブソイラー等による雪上心土破碎、作業機械等による除雪や雪割り作業等の実施) ⑪消毒が施された種子を播種する。 ※ただし、大豆等の間作で秋小麦を栽培する場合において、未消毒種子を播種する際は、降雪前に1回以上の雪腐防除を実施する。 ことで消毒が施された種子の播種に変えることとする。 ⑫疫病の発生を防ぐための防除作業を実施すること ⑬病虫害発生予察情報を基にした適期病虫害防除の実施 ⑭緩効性肥料の使用⑮雪腐病防除の実施					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物 交付申請書、営農計画書等で確認 ○取組要件 ①作付面積：共済加入者は共済引受面積、共済未加入者は農協等が確認している面積により確認。 ②取組実績面積については圃場位置図、栽培管理台帳、作業日誌、資材購入伝票等により確認。					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計 単収は出荷量を証明できる書類の写しにより集計。 (単収＝全製品出荷量÷全作付面積)					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会			整理番号	2	
使途名	大豆収益力向上助成					
対象作物	大豆（黒大豆含）					
単 価	12,400円／10a以内（上限21,000円）					
課 題	本町は豪雪地帯であるため雪解けも遅く春先には降雨が多発するため排水不良による単収の低下を招いていることから排水対策等を徹底する必要がある。また、単収を増加し収益力の向上を図るためには適切な肥培管理を徹底し、生産性、品質の向上を図る必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	単収 作付面積	目 標	302kg/10ha	270kg/10ha	275kg/10ha	280kg/10ha
			120ha	110ha	110ha	110ha
		実績	265kg/10ha	281kg/10ha	368kg/10ha	
			99ha	108ha	100ha	
内 容	地域全体の生産性・品質を向上し収量の安定化を図るため、単収向上の取組に対し交付する。					
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を販売目的で作付した農業者又は農業生産法人 ○対象農地：水田 ○取組要件 以下より2つ以上実施。 ①心土破碎（サブソイラ、プラソイラ等施工）、②明暗渠の施行（無材暗渠施工含む） ③心土改良（カッティングソイラ等施工）、④畦間サブソイラ施工、⑤高畦栽培 ⑥深耕爪付プランタの利用、⑦畦間土壌透水性改善（カルチベータ等施工） ⑧土壌診断結果に基づく適正施肥を実施する。 ⑨適期播種を実施すること。（晩期限界期限までの播種） ※晩期限界期限については、空知農業改良普及センター北空知支所が農業者向けに配布している「営農情報」で示された期日とする。 ⑩融雪促進による圃場の乾燥化（融雪剤散布、サブソイラー等による雪上心土破碎、作業機械等による除雪や雪割り作業等の実施） ⑪消毒が施された種子を播種する。 ※ただし、大豆等の間作で秋小麦を栽培する場合において、未消毒種子を播種する際は、降雪前に1回以上の雪腐防除を実施する。 ことで消毒が施された種子の播種に変えることとする。 ⑫疫病の発生を防ぐための防除作業を実施すること ⑬病虫害発生予察情報を基にした適期病虫害防除の実施 ⑭緩効性肥料の使用					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物 交付申請書、営農計画書等で確認 ○取組要件 ①作付面積：共済加入者は共済引受面積、共済未加入者は農協等が確認している面積により確認。 ②取組実績面積については圃場位置図、栽培管理台帳、作業日誌、資材購入伝票等により確認。					
成果等の 確認方法	令和8年2月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計 単収は出荷量を証明できる書類の写しにより集計。 （単収＝全製品出荷量÷全作付面積）					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会		整理番号	3		
使途名	そば収益力向上助成					
対象作物	そば					
単 価	11,600円／10a以内(上限14,000円)					
課 題	本町は豪雪地帯であるため雪解けも遅く春先には降雨が多発するため排水不良による単収の低下を招いていることから排水対策等を徹底する必要がある。また、単収を増加し収益力の向上を図るためには適切な肥培管理を徹底し、生産性、品質の向上を図る必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	単収 作付面積	目 標	82kg/10ha	50kg/10ha	60kg/10ha	70kg/10ha
			44.6ha	35ha	40ha	45ha
		実績	36kg/10ha	65kg/10ha	68kg/10ha	
			33.6ha	26.8ha	36.7ha	
内 容	地域全体の生産性・品質を向上し収量の安定化を図るため、単収向上の取組に対し交付する。					
具体的要件	○助成対象者:助成対象作物を販売目的で作付した農業者又は農業生産法人 ○対象農地:水田 ○取組要件 以下より2つ以上実施。 ①心土破碎(サブソイラ、プラソイラ等施工)、②明暗渠の施行(無材暗渠施工含む) ③心土改良(カッティングソイラ等施工)、④畦間サブソイラ施工、⑤高畦栽培 ⑥深耕爪付プランタの利用、⑦畦間土壌透水性改善(カルチベータ等施工) ⑧土壌診断結果に基づく適正施肥を実施する。 ⑨適期播種を実施すること。(晩期限界期限までの播種) ※晩期限界期限については、空知農業改良普及センター北空知支所が農業者向けに配布している「営農情報」で示された期日とする。 ⑩融雪促進による圃場の乾燥化(融雪剤散布、サブソイラー等による雪上心土破碎、作業機械等による除雪や雪割り作業等の実施)					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物 交付申請書、営農計画書等で確認 ○取組要件 ①作付面積:共済加入者は共済引受面積、共済未加入者は農協等が確認している面積により確認。 ②取組実績面積については圃場位置図、栽培管理台帳、作業日誌、資材購入伝票等により確認。					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計 単収は出荷量を証明できる書類の写しにより集計。 (単収＝全製品出荷量÷全作付面積)					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	4
使途名	地域振興作物助成					
対象作物	花き(切り花母樹も含む)、ししとう、ブロッコリー、ミニトマト、メロン ※花きの品種については別紙に記載					
単 価	49,900円／10a以内(上限63,000円)					
課 題	地域の農産物生産を維持するにも産地の高齢化や労働力不足が懸念されている中、収益性の高い作物の導入を図り、産地の強化や複合経営を推進するため生産面積の拡大が必要である。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	20.5ha	17.5ha	18.5ha	19.5ha
		実績	15.4ha	16.5ha	16.9ha	
内 容	水田収益力強化ビジョンに掲げる地域振興作物の作付に対して助成 当該作物は、地域農業経営の安定において今後とも継続して振興すべきものであり、より一層の産地力強化を図る。					
具体的要件	○助成対象者:助成対象作物を作付した農業者 ○対象農地:水田 ※新規作付において収穫不能な花き等の品種については、通常の作付で行う肥培管理を要件とする。					
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、現地確認、圃場位置図、水田収益力強化ビジョンで確認 新規作付等で収穫不能な花き等については栽培管理台帳等で確認					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	5
使途名	地域振興作物助成					
対象作物	小豆					
単 価	39,500円／10a以内(上限47,500円)					
課 題	地域の農産物生産を維持するにも産地の高齢化や労働力不足が懸念されている中、収益性の高い作物の導入を図り、産地の強化や複合経営を推進するため生産面積の拡大が必要である。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	11.4ha	5ha	6ha	7ha
		実績	3.9ha	11.6ha	12.8ha	
内 容	水田収益力強化ビジョンに掲げる地域振興作物の作付に対して助成 当該作物は、地域農業経営の安定において今後とも継続して振興すべきものであり、より一層の産地力強化を図る。					
具体的要件	○助成対象者:助成対象作物を作付した農業者 ○対象農地:水田					
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、現地確認、圃場位置図、水田収益力強化ビジョンで確認					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計					
備考	支援年限は設定していない					

- ※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。
 ※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。
 ※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	6
使途名	地域振興作物助成					
対象作物	【基幹作物】 その他野菜 ※その他野菜については別表で定める。					
単 価	20,700円／10a以内（上限25,000円）					
課 題	地域の農産物生産を維持するにも産地の高齢化や労働力不足が懸念されている中、収益性の高い作物の導入を図り、産地の強化や複合経営を推進するため生産面積の拡大が必要である。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	5.5ha	7.1ha	7.3ha	7.4ha
		実績	6.9ha	0.1ha	0.1ha	
内 容	地域水田収益力強化ビジョンに掲げる地域振興作物の作付けに対して助成。（ただし、戦略作物は除く。） 当該作物は、地域農業経営の安定において今後とも継続して振興すべきものであり、より一層の産地強化を図る。					
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を作付けした農業者 ○対象農地：水田					
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、現地確認、ほ場位置図、水田収益力強化ビジョンにて確認					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	7											
使途名	わら利用助成（耕畜連携）																
対象作物	飼料用米																
単 価	10,800円／10a以内（上限13,000円）																
課 題	稲わらは、稲刈り収穫後に圃場で乾燥させたのちに収集する必要があるが、その稲わらを畜産農家等に販売し収益力向上を図るため、本取組を支援し今後も継続的に耕畜連携の取組を推進する必要がある。																
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度											
	取組面積 作付面積	目標	16.7ha	22ha	23ha	24ha											
			60ha	190ha	192ha	194ha											
		実績	21.5ha	27.7ha	6.6ha												
			186.7ha	89.4ha	38.0ha												
内 容	耕種農家と畜産農家における地域内連携を図るため、飼料用米生産ほ場の稲わら利用による耕畜連携に取組む農業者に助成する。																
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を作付けした農業者 ○対象農地：水田 ○助成対象作物：飼料用米 ○取組要件 1 連携の相手方となる者（畜産農家等）との間に、3年間以上を締結期間とする利用供給協定が締結（自家利用の場合には自家利用計画が策定）されていること。なお、利用供給協定に含まれるべき事項は以下のとおり。 【利用供給協定に含まれるべき事項】 <table border="0"> <tr> <td>① 取組の内容</td> <td>⑥ 刈取り時期</td> </tr> <tr> <td>② わらを生産する者</td> <td>⑦ 利用供給協定締結期間</td> </tr> <tr> <td>③ わらを収集する者</td> <td>⑧ わら取引の条件（作業分担及び品代・経費の負担）</td> </tr> <tr> <td>④ わらを利用する者</td> <td>⑨ その他必要な事項</td> </tr> <tr> <td>⑤ ほ場の場所及び面積</td> <td></td> </tr> </table> 2 生産されたわらが飼料として利用され、かつ、その子実が飼料又は飼料の種苗として利用されること 3 刈取り時期が出穂期以降で利用供給協定に定める時期であること 4 他の耕畜連携の助成（整理番8、9）の助成を受けていないこと 5 生産性向上のための課題に対する取組として、別紙の取組のうち1つ以上に取り組むこと。							① 取組の内容	⑥ 刈取り時期	② わらを生産する者	⑦ 利用供給協定締結期間	③ わらを収集する者	⑧ わら取引の条件（作業分担及び品代・経費の負担）	④ わらを利用する者	⑨ その他必要な事項	⑤ ほ場の場所及び面積	
① 取組の内容	⑥ 刈取り時期																
② わらを生産する者	⑦ 利用供給協定締結期間																
③ わらを収集する者	⑧ わら取引の条件（作業分担及び品代・経費の負担）																
④ わらを利用する者	⑨ その他必要な事項																
⑤ ほ場の場所及び面積																	
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、利用供給協定書、現地確認、水田収益力強化ビジョンにて確認 ○その他 取組実績面積は、圃場位置図、新規需要米取組計画書、新規需要米出荷契約数量等農業者別一覧表、新規需要米認定結果通知書、作業日誌、写真等により確認																
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 取組面積については、支払対象面積を集計 作付面積については、新規需要米取組計画書、認定結果通知書等により確認																
備考	支援年限は設定していない																

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	8									
使途名	水田放牧助成（耕畜連携）														
対象作物	飼料作物														
単 価	10,800円／10a以内（上限13,000円）														
課 題	高齢化や労働力不足が懸念される中、飼料作物生産圃場で家畜の放牧を推進することにより、作物作付後の肥培管理等の省力化、また家畜の糞尿等により地力を高めることができることから水田放牧による耕畜連携の取組を支援する必要がある。														
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度									
	取組面積 作付面積	目標	0.6ha	0.4ha	0.5ha	0.6ha									
			30ha	27ha	29ha	30ha									
		実績	0.3ha	0.3ha	0.3ha										
			26.9ha	11.6ha	11.2ha										
内 容	耕種農家と畜産農家における地域内連携を図るため、飼料作物生産水田での放牧による耕畜連携に取組む農業者に助成する。														
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を作付けした農業者 ○対象農地：水田 ○助成対象作物：飼料作物 ○取組要件 1 連携の相手方となる者（畜産農家等）との間に、3年間以上を締結期間とする利用供給協定が締結（自家利用の場合には自家利用計画が策定）されていること。なお、利用供給協定に含まれるべき事項は以下のとおり。 【利用供給協定に含まれるべき事項】 <table border="0"> <tr> <td>① 取組の内容</td><td>⑤ 牛の入退牧の時期及び放牧頭数</td></tr> <tr> <td>② 飼料作物を生産する者</td><td>⑥ 利用供給協定締結期間</td></tr> <tr> <td>③ 牛群を管理する者</td><td>⑦ 水田放牧の条件（作業分担及び品代・経費の負担）</td></tr> <tr> <td>④ ほ場の場所及び面積</td><td>⑧ その他必要な事項</td></tr> </table> 2 作付水田において、当年度に放牧の取組が行われること 3 1ha当たりの放牧頭数が成牛換算で2頭以上であること。 （成牛換算は育成牛2頭当たり成牛1頭とする） 4 1ha当たりの延べ放牧頭数が180頭日以上であること 5 他の耕畜連携の助成（整理番7、9）の助成を受けていないこと 6 生産性向上のための課題に対する取組として、別紙の取組のうち1つ以上に取り組むこと。							① 取組の内容	⑤ 牛の入退牧の時期及び放牧頭数	② 飼料作物を生産する者	⑥ 利用供給協定締結期間	③ 牛群を管理する者	⑦ 水田放牧の条件（作業分担及び品代・経費の負担）	④ ほ場の場所及び面積	⑧ その他必要な事項
① 取組の内容	⑤ 牛の入退牧の時期及び放牧頭数														
② 飼料作物を生産する者	⑥ 利用供給協定締結期間														
③ 牛群を管理する者	⑦ 水田放牧の条件（作業分担及び品代・経費の負担）														
④ ほ場の場所及び面積	⑧ その他必要な事項														
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、現地確認、水田収益力強化ビジョンにて確認 ○その他 取組実績面積は、圃場位置図、利用供給協定、現地確認、作業日誌、写真等により確認														
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 取組面積については、支払対象面積を集計 作付面積については、圃場位置図、利用供給協定等で確認														
備考	支援年限は設定していない														

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会			整理番号	9											
使途名	資源循環助成（耕畜連携）															
対象作物	飼料作物、WCS用稲（別表のとおり）															
単 価	10,800円／10a以内（上限13,000円）															
課 題	飼料作物及びWCS用稲の作付を維持していくためにも作物の生産力を確保することが課題となる。対象作物を給与した家畜のたい肥を散布することにより肥料費の削減によるコスト低減、また土壌の改善や雑草の軽減を図ることができることから本取組により耕種農家を支援し、今後も継続的に耕畜連携の取組を推進する必要がある。															
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度										
	取組面積 作付面積	目標	25ha	25ha	27ha	29ha										
			50ha	80ha	82ha	84ha										
		実績	24.7ha	26.7ha	22.8ha											
			79.3ha	105.7ha	102.3ha											
内 容	耕種農家と畜産農家における地域内連携を図るため、飼料作物等生産水田への堆肥散布による耕畜連携に取組む農業者に助成する。															
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を作付けした農業者 ○対象農地：水田 ○助成対象作物：飼料作物、WCS用稲（別表のとおり） ○取組要件 1 連携の相手方となる者（畜産農家等）との間に、3年間以上を締結期間とする利用供給協定が締結（自家利用の場合には自家利用計画が策定）されていること。なお、利用供給協定に含まれるべき事項は以下のとおり。 【利用供給協定に含まれるべき事項】 <table border="0"> <tr> <td>① 取組の内容</td> <td>⑥ 堆肥の散布時期及び量</td> </tr> <tr> <td>② 供給される飼料作物等の種類</td> <td>⑦ 利用供給協定締結期間</td> </tr> <tr> <td>③ 飼料作物を生産する者</td> <td>⑧ 堆肥散布の条件（作業分担及び品代・経費の負担）</td> </tr> <tr> <td>④ 堆肥を散布する者</td> <td>⑨ その他必要な事項</td> </tr> <tr> <td>⑤ 圃場の場所及び面積</td> <td></td> </tr> </table> 2 1に基づき水田で生産された対象作物の供給を受けた家畜の排せつ物から生産された堆肥を当年度において施肥すること。 3 堆肥の散布量が10a当たりで2t又は4m³以上であること（成牛換算は育成牛2頭当たり成牛1頭とする） 4 1ha当たりの延べ放牧頭数が180頭日以上であること 5 堆肥散布の取組による他の助成を受けていないこと 6 他の耕畜連携の助成（整理番7、8）の助成を受けていないこと						① 取組の内容	⑥ 堆肥の散布時期及び量	② 供給される飼料作物等の種類	⑦ 利用供給協定締結期間	③ 飼料作物を生産する者	⑧ 堆肥散布の条件（作業分担及び品代・経費の負担）	④ 堆肥を散布する者	⑨ その他必要な事項	⑤ 圃場の場所及び面積	
① 取組の内容	⑥ 堆肥の散布時期及び量															
② 供給される飼料作物等の種類	⑦ 利用供給協定締結期間															
③ 飼料作物を生産する者	⑧ 堆肥散布の条件（作業分担及び品代・経費の負担）															
④ 堆肥を散布する者	⑨ その他必要な事項															
⑤ 圃場の場所及び面積																
取組の 確認方法	○助成対象者、助成対象水田、助成対象面積、助成対象作物 交付申請書、営農計画書、現地確認、水田収益力強化ビジョンにて確認 ○その他 取組実績面積は、圃場位置図、利用供給協定、現地確認、作業日誌、写真、その他堆肥の引き渡し の確認ができる書類等により確認															
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 取組面積については、支払対象面積を集計 作付面積については、圃場位置図、利用供給協定等で確認															
備考	支援年限は設定していない															

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

(別表) 粗飼料作物等の範囲

青刈りとうもろこし、青刈りソルガム、テオシント、スーダングラス、青刈り麦(らい麦又はえん麦を含む。またサイレー
ジ化したものを含む。)、青刈り大豆、子実用えん麦、WCS用稲、青刈りひえ、しこくびえ、オーチャードグラス、チモ
シー、イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス、ハイブリットライグラス、スミーズブロムグラス、トールフェスク、メ
ドーフェスク、フェストロリウム、ケンタッキーブルーグラス、リードカナリーグラス、バヒアグラス、ギニアグラス、カラ
ドギニアグラス、アルファルファ、オオクサキビ、アカクローバ、シロクローバ、アルサイククローバ、ガレガ、ローズグ
ラス、パラグラス、パンゴラグラス、ネピアグラス、セタリア、飼料用かぶ、飼料用ビート、飼料用しば

(注) 上記の粗飼料作物等については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、めん羊、山羊

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	10
使途名	地力増進作物助成					
対象作物	地力増進作物 ※地力増進作物については別表に定める					
単 価	9,900円／10a以内(上限12,000円)					
課 題	本町では、近年、基盤整備の実施により生産性の向上や作業の効率化が進んでいるが、工事後の圃場においては耕盤の破壊や土壌の移動により地力ムラ、また転圧に伴う表土の硬化等の影響が出るため次年度の作物において約10%程度の収量の低下が見られることから、次年度作付までの間に良質な表土を保持させることが課題となっている。 そのため、圃場整備後の安定的な収量・品質を確保するために牛ふん堆肥を0.67t/10a鋤き込んだのと同等の炭素貯留効果や耕盤層を貫通する形で根を張り土壌硬化の改善が期待できるとされている地力増進作物を作付けし鋤き込むことにより、次年度の作付けに向けて圃場を良好な状態に保つ必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	38.3ha	41.4ha	41.9ha	42.4ha
		実績	37.0ha	38.3ha	31.1ha	
内 容	圃場整備等の土地改良を行い収益性の向上を目的に地力増進作物を作付けに対し助成する。					
具体的要件	○助成対象者 地力増進作物を作付した農業者 ○対象農地区分 水田(該当年度に圃場整備を行った農地) ○取組要件 圃場整備を行った圃場が該当年に収穫がない場合に地力増進作物を作付けし鋤き込みを行うこと。					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物 交付申請書、営農計画書等で確認 ○取組要件 取組実績面積については圃場位置図、作業日誌、資材購入伝票等により確認。					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、交付申請書、営農計画書及び現地確認により確認する。					
備考	支援年限は設定していない					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	11
使途名	そば作付助成					
対象作物	そば					
単 価	20,000円／10a					
課 題	そばの作付振興を図り、安定的な所得確保として実需と結びついた契約販売を確保し有利販売を目指す必要があることから生産面積を拡大する必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	44.6ha	30ha	35ha	40ha
		実績	33.6ha	26.8ha	36.7ha	
内 容	そばの作付振興を図るため、そばの作付に対して助成を行う。					
具体的要件	○助成対象作物を作付した農業者 ○出荷販売実績の確認できるもの ○対象農地：水田					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物 交付申請書、営農計画書等で確認 ○取組要件 ①作付面積：共済加入者は共済引受面積、共済未加入者は農協等が確認している面積により確認。 ②取組実績面積については圃場位置図、栽培管理台帳、作業日誌、資材購入伝票等により確認。					
成果等の 確認方法	当年11月末までに、以下の方法で確認する。 作付面積については、支払対象面積を集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会				整理番号	12
使途名	新市場開拓用米取組拡大助成					
対象作物	新市場開拓用米					
単 価	20,000円／10a					
課 題	主食用米の需要減少が続く中、需要に応じた生産を進める必要があることから将来に向けた取り組みとして、今後大きな需要が見込まれる新たなマーケットを切り開いていくことが重要な課題となることから主食用米から新市場開拓米への転換を図る必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	4.5ha	12.2ha	12.4ha	12.6ha
		実績	11.8ha	29.8ha	12.5ha	
内 容	需要者と出荷・販売契約を締結し、新市場開拓用米へ転換する取組を支援する。					
具体的要件	1, 助成対象者 需要者に出荷・販売することを目的として対象作物の生産に取り組む農業者又は集落営農組織とする。 2, 取組要件 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領に定める新規需要米取組計画書を受理されること。					
取組の 確認方法	1, 助成対象者 交付申請書及び営農計画書、出荷契約書、販売伝票、作業日誌等で対象者を確認する。 2, 取組要件 新規需要米取組計画書					
成果等の 確認方法	当年12月末日までに、作付面積については新規需要米取組計画書で確認 ※ただし助成対象面積については「コメ新市場開拓等促進事業」の支援対象となった面積を除くものとする。					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	妹背牛町地域農業再生協議会			整理番号	13
使途名	複数年契約加算				
対象作物	新市場開拓用米				
単 価	10,000円/10a				
課 題	新市場開拓用米については需要者に対する安定供給が課題になっていることから、主食用米の需給環境によらない安定的な作付を確保するため、複数年契約の取組を推進していく必要がある。				
目 標			令和6年度	令和7年度	令和8年度
	複数年契約 取組面積・数量	目標	5.1ha・28.6t	11.2ha・65.1t	12.1ha・71.0t
		実績	10.2ha・59.2t	0ha・0t	
	作付面積・数量	目標	5.1ha・28.6t	29.8ha・172.0t	29.8ha・172.0t
		実績	29.8ha・172.0t	12.5ha/73.5t	
内 容	需要者との複数年契約(3年以上)に基づき、新市場開拓用米を作付する取組を支援する。				
具体的要件	1 交付対象者 販売農家又は集落営農 2 需要者側(需要者又は実需者団体)へ出荷・販売を目的として、以下の要件を満たす3年以上の複数年契約(令和6年度以降に新たに締結された契約であること、かつ令和7年度以降の連続した3年分以上を含む契約であること)に基づき、対象作物の生産に取り組む販売農家又は集落営農(複数年契約に係る新規需要米取組計画又は生産製造連携事業計画に位置付けられた者に限る。)による取組であること。 ① 生産者側(生産者又は生産者団体のいずれか)と需要者側(需要者又は需要者団体のいずれか)の契約であること。 ② 販売契約書に各年度米の契約数量及び契約価格(契約価格の設定方法を含む)が明確に記載されており、かつ、契約不履行に対する違約条項があること。 ③ 複数年契約期間中の契約数量が維持又は増加するものであること。 3 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領に定める新規需要米取組計画書の受理又は米穀の新用途への利用の促進に関する法律に定める生産製造連携事業計画の認定を受けていること。				
取組の 確認方法	○以下の書類及び現地確認により確認する。 ・交付申請書及び営農計画書 ・新規需要米取組計画書又は生産製造連携事業計画及びその添付書類 (新規需要米出荷契約数量等 農業者別一覧表、複数年契約に係る販売契約書等) ・販売伝票、作業日誌等の収穫・出荷・販売を行ったことがわかる書類 (※自家利用の場合は、新規需要米自家加工販売計画書) ・別紙の生産性向上の取組を行ったことがわかる書類				
成果等の 確認方法	当年12月末日までに、以下の書類等により確認する。 ・取組面積:支払対象面積 ・作付面積・数量:需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領に定める生産出荷数量一覧表				
備考					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和8年度から新規に設定した目標については、令和7年度の目標の記載は不要です。

別 紙（地域振興作物一覧）

小豆

花き（切り花母樹含む）の作付品種一覧表

アジサイ	けいとう	ツルウメモドキ	ブルースプレー
アスター	コスモス	つる梅もどき	ブルーレースフラワー
アスチルベ	コティナス	テマリシモツケ	ブルビネラ
アストラランチャ	コデマリ	てまり草	ベニバナ
アスパラガス（観賞用）	サリクトラム	デルフィニウム	ホワイトレースフラワー
アナベル	サンダーソニア	とうがらし（観賞用）	マトリカリア
アリウム	シネンシス	トルコギキョウ	ミナヅキ
アリストロメリア	シモツケ	トロリウス	ムスカリ
アルケミラ	シャクヤク	ナデシコ	メロン（観賞用）
ウメモドキ	シンフォリカルフォス	ナナカマド	モナルダ
エキノプシス	スイートピー	ナルコユリ	モルセラ
エリンジウム	スカビオサ	ニゲラ	ヤナギ
エレムルス	スキミア	ネリネ	ユーホルビア
オオデマリ	スズバラ	ハイドランジア	ユキヤナギ（バラ科）
オーニソガラム	スズバラ	パニカム	ユリ
おもちゃかぼちゃ	スズラン	パプチシア	ラークスパー
オルナヤ	スターチス	ハボタン	ライラック
カーネーション	ストック	バラ実物	ラナンキュラス
カスミソウ	スナップ	ビバーナム	ラムズイヤー
かぼちゃ（観賞用）	スノーボール	ビブルナム	リアトリス
カラー	スピードリオン	ヒペリカム	リシマキア
カンパニュラ	スモークツリー	ヒマワリ	リンドウ
キイチゴ	スモークツリー	ヒメヒコダイ	ルドベキア
キク	セダム	ヒメヒマワリ	ローズマリー
キャンディタフト	センニチソウ	フェンネル	ワレモコウ
きんぎょそう	ソリダコ	フサスグリ	菊アスター
グラスペディア	ダリア	ブプレ	紫式部
クレマチス	チャームブルー	フリージア	小菊
グロリオサ	チョコレートコスモス	ブルースター	梅もどき

その他野菜の作付一覧表

アジウリ	ゴーヤ	ズッキーニ	パセリ
アスパラガス	ごぼう	スナップエンドウ	パプリカ
いちご	こまつな	セロリ	ブロッコリー
いんげん	さつまいも	そらまめ	ほうれんそう
うり	さといも	だいこん	マダーボール
エゴマ	サニーレタス	たまねぎ	みずな
えだまめ	さやいんげん	トマト	みつば
オクラ	さやえんどう	ながいも	ミニかぼちゃ
かぶ	サンチュ	なす	ミニトマト
かぼちゃ	しいたけ	なた豆	みょうが
カリフラワー	ししとう	にら	メロン
カンロ	しそ	にんじん	モロヘイヤ
キャベツ	シロウリ	にんにく	レタス
きゅうり	スイートコーン	ねぎ	山わさび
ぎょうじゃにんにく	すいか	はくさい	グリーンピース
きくいも			

地力増進作物一覧

えん麦	青刈りとうもろこし	ソルガム	イタリアンライグラス
ギニアグラス	スーダングラス	アカクローバー	アルサイククローバー
クリムソンクローバー	ベッチ	ペルコ	カラシナ
レバナ	はぜりそう	マリーゴールド	ひまわり
キガラシ	ステビア	ナタネ	ヘイオーツ
ライ麦			